

# 生活文化環境委員会 視察報告書

報告者 委員長 佐藤成子

随行 望月一竹 議会事務局

福島かおり 議会事務局

竹下秀人 議会事務局

開催日 平成 24 年 8 月 28 日(火)～30 日(木)

視察先・調査事項 ★函館市 函館市議会

☆五稜郭跡復元整備事業について

☆函館市地域交流まちづくりセンター

★札幌市 (独)産業技術総合研究所北海道センター

☆新エネルギーの研究開発

☆メタンハイドレートの実用化研究

北海道議会

☆北海道水資源の保全に関する条例

参加委員 工藤公彦・伊東稔浩・石上顕太郎・小野勇

内田隆典・遠藤宏樹・山根田鶴子・佐藤成子

# 五稜郭跡復元整備事業

## ★箱館奉行所とは★

幕末の黒船来航による、箱館(明治2年以降に、箱→函に)開港により江戸幕府が設置した北辺地(当時の呼称・蝦夷地)統治のための役所です。当初は箱館山の麓に置かれていましたが、安政4年(1857年)に五稜郭の築造が開始され、郭内建物の建築にも着手、元治元年(1864年)に奉行所も麓から移転されています。その後、明治元年(1868年)の戊辰戦争の最後の戦い、箱館戦争の舞台となり、旧幕府脱走軍降伏2年目、明治4年(1871年)に、開拓使により、他の郭内の建物と共に解体されました。大正時代からは、五稜郭が公園として解放されています。歴史を振り返れば、幕府の直轄地である蝦夷地の統治、ロシアとの領土問題など諸外国との外交、海岸防備等大きな業務を行っていたのが、箱館奉行所と言えます。大正11(1922年)年に国の史跡に指定され、昭和27年(1952年)には、北海道で唯一の国の特別史跡に指定されています。

役目を終えて、解体された箱館奉行所ですが、残された五稜郭跡は函館市民の街のシンボルとして生き続けてきました。昭和61年(1986年)箱館奉行所遺構発掘調査が行われ、五稜郭中央のアカマツに囲まれた範囲に箱館奉行所は建ち、全体面積は約3,000㎡で、このうち4分の3が公的な役所部分で、残りは奉行役の住まいで奥行き部分であることがわかりました。その後平成12年(2000年)に箱館奉行所復元構想が策定され、翌年には復元計画が策定されています。復元に当たっては、行政を主に司った部分で、古写真に写っている棟を中心にする1,000㎡の建物の復元をし、残りの2,000㎡は、地面に部屋割りを区画し表示する事になり、平成17年(2005年)から特別史跡五稜郭跡復元整備事業が開始されました。①事業目的：五稜郭跡は、徳川幕府が幕末期に洋学を積極的に取り入れ、近代化を進めた特徴的な遺構で、日本の近代史(明治維新)を語るのに、欠くことのできない史跡ですが、明治以降、郭内には、兵糧庫一棟とアカマツのみしか残っておらず、本来の歴史的景観や価値がわかりにくい状態にありました。この事から、歴史的意義を来訪者に分かりやすくするために、中心施設であった箱館奉行所を復元し、五稜郭跡を核とした、観光を含めての地域の活性化を目的に復元整備事業が始められました。この事業は無事終了。平成22年(2010年)竣工、開館の運びになったのです。②総事業費：2,768,388,000円で、国・道補助金が44.7%、起債(合併特例債)が54.1%、一般財源1%、指定寄付が0.2%の割合。③再現の工夫：建物配置の空間的位置づけや当時の工法・技

術等を視覚的、触覚的に安易に理解できるように考えて再現している。④現在の管理運営方法：指定管理者制度導入(公募)。管理委託料は総額 292,020,000 円、利用料金制度は未使用。平成 26 年度までの契約。平成 23 年度の入館者は 237,126 人、開館日は 365 日。⑤今後の課題：外国人観光客・市民のリピーター入館者の促進。魅力あるイベントの開催や誘致。平成 27 年開通予定の北海道新幹線開業へ向けた修学旅行や観光客の積極的誘。 (観光担当部局との密接した連携)

## 函館市地域交流まちづくりセンター

建物は、大正 12 年創建の丸井今井呉服店函館支店の建物を改築し再利用しているものです。2007 年、新たに函館西部地区のランドマークに生まれ変わりました。NPO やボランティアなどの活動支援の場、市民の交流の場、地域情報の発信の場としてコミュニケーションやまちづくり活動をサポートしています。

市民活動やNPO についての相談、打ち合わせ場所の提供、それらの情報の提供、また研修会や展示会の場所の提供、会報やチラシづくりのアドバイス、観光情報や地域情報の発信も行っています。一階は情報発信フロアー・2 階は市民交流フロアー・3 階は市民活動支援フロアーです。

### ★はこだて「まちのチカラ」サポートデスク★

意欲という種を「まちのチカラ」へ芽吹かせるためのお手伝いをしています。また「まちのチカラ」を求めている人「まちのチカラ」を応援したい人に役立つ情報提供するデスクです。ひとそれぞれが持つ関心事や思いが意欲に変わった時、それは「まちのチカラ」へ育つ一粒の種となります。その種が芽吹くためには、人との出会いのきっかけ、情報や知識・技術が必要になる時があります。さまざまなきっかけづくりがサポートセンターの役目です。

## (独) 産業技術総合研究所北海道センター

産総建は、①持続的発展可能な社会実現への貢献②産業競争力強化等への貢献③産業政策の地域発展への貢献④産業技術政策立案等への貢献をミッションとして、人間の生活を豊かにする科学技術の開発を基本に取り組んでいます。特に、このセンターは、「バイオものづくり」をキーワードとして、「ゲノム情

報を利用した有用物質生産技術」の確立を目指し「植物・微生物による有用物質生産技術開発」「タンパク質・核酸の機能解析・抑制及び利用に係る技術」を重点に推進しています。また、地域の産学官との連携強化による地域産業技術の発展を願っています。新エネルギーの開発（粘土膜・クレースト・からの機能材料開発やメタンハイドレート研究センターでは、低炭素社会実現への取り組みを行っています。

#### ★メタンハイドレート研究センター★

日本の排他的経済水域内に賦存し、新たな天然資源ガスとして期待されているメタンハイドレート資源から、天然ガスを経済的かつ安全に生産するための技術整備を行うと同時に、ガスハイドレートの物理的特性を生かした省エネルギー技術など新たな産業を創出するための取り組みを行っています。研究者・技術者の人材育成や情報発信など、つくばセンターと連携し、世界的な中樞拠点の役割を果たしています。メタンハイドレートが含まれる砂の層の状態を再現して、効率的に取り出す方法を探るための巨大な実験装置を使い天然ガスを生産する手法の開発が進められています。カナダ極域に於いては、陸上産出試験によって、センターが開発した減圧生産手法の実証が行われております。メタンハイドレートは、日本の周辺海域では、北海道周辺、東海沖から九州東岸に至る太平洋側、日本海など、また東部南海トラフ等に多く存在していることが分かっています。その量は、日本の天然ガス消費量の13年分に相当する1兆1400億立方メートルの原資資源量と見積もられています。これらの研究・実証を効率的に推し進めるために、生産技術開発チーム・貯留層特性解析チーム・生産モデル開発チーム・物理特性解析チームを設置し、環境特性の高いエネルギーの安定供給の確保と新たなエネルギー産業の創出に努めています。

## 北海道議会

#### ★北海道水資源の保全に関する条例について★

水源周辺の土地が適切に利用されることなどを旨として「北海道水資源の保全に関する条例」が制定されています。その背景には、水源周辺における利用目的が明らかでない大規模な土地取引が行われている事実や現行の制度では、土地所有者の把握や土地取引情報の事前把握が困難な事、また水資源に対する

道民の関心が高まり、適正な土地利用の必要性が求められての等がありました。道民のかけがえのない北海道の水を持続的に利用できるものとして、次の世代に引き継いでいく事が使命であり、それぞれの立場で、水資源の保全に関する役割を認識し、道民こぞって取り組む必要があることから、水資源の保全に向けた基本理念や施策などを定める条例制定となりました。主な内容は①水資源の保全に関する基本的施策②水資源保全地域の指定③水資源保全地域の土地の権利を移転する際の事前届け出の必要④北海道水資源保全審議会の設置などです。条例素案に対してのパブリックコメントの実施、地域説明会、北海道水資源の保全に関する条例検討懇話会の設置などもされ、平成24年4月1日から施行されました。(届け出制は、10月1日から)

**道庁赤れんが前で 視察参加委員と随員職員**



## 視察所感

### ★五稜郭復元整備事業について★

文化庁の許可による復元なので、その復元は本格的で素晴らしいの一言だ。宮大工による建築構造の伝承、木材の調達など、まさに今後語り継ぐ事が出来る歴史的建造物となると言える。日本伝統の“和”の極み、その奥深さを知ることが出来た。復元とはこのようなものなのでしょう。で、我が駿府城天守閣に思いを寄せると、正確な図面、設計図、や古写真、古文書の資料がこことは比較にならないほど手元に少ないし、存在しない。復元は文化庁の許可が出ないのもやむを得ない。が、何とかまちづくり、人の集まる静岡にするための、ランドマーク的な再建が出来ないだろうかとの考えの声も聞かれる。調査は引き続きやるとして、駿府城公園と改名したことも鑑み、中・長期的施策の一考に値するのではないだろうか。他にも史跡はたくさん静岡市内にある。まちみがきし、情報発信。その仕方にも工夫が必要なのではないだろうか。市民がまずその歴史的価値や重さを自覚する必要があるし、それらを学ぶ場づくりが必要だ。市民の意識の醸成は、小さなころからの積み重ねでできると思う。市民の英知を結集して、どの方法が良いのか検討し、決する時ではないだろうか。

### ★函館市地域交流まちづくりセンター★

大正12年建築の丸井今井呉服店函館支店を再利用している事に感銘を受けた。このように、まちのシンボルであった建物を壊さずに保存する事は、市民のこの街を愛している表れなのではないだろうか。まちづくりの視点として大事な事だと思う。センターで働く人たちの情熱が伝わってくる説明でした。その意気込みがまちづくりに繋がっています。棚に並んだ「函館・まちあるきマップ」はきめ細かなテーマやブロックごと丁寧に造られて、No.22まで。これがあれば、初めて訪れても、リピーターでもしっかりと函館が楽しめる。まさに戦略的観光パンフ（在函館市にも）と言える。又、「函館暮らしがいど」「函館市居住サポートガイドブック」などを作成し、居住人口増加を図っている。このようにこのセンターは、市民活動の拠点でもあるが、市政の情報発信基地でもある。静岡市にも、それぞれ区ごとに市民活動センターがある。まち中のビルにも、まちづくりセンターなどもある。このセンターは、再利用の建物の趣からか、立ち寄りやすい親しみやすい感じだ。ここでは、居住人口増加のための策として、移転してきた人をうまく利用している。中山間地ばかりではない移住の勧めも静岡でやれるのではないだろうか。まずは、まちの魅力発信にかかっている。訪れる人の増加が必要だ。市民活動センターにもう少し観光的要素を

入れていくことが必要なのではないだろうか。設置目的を広げての場の活用が望ましいと思う。

#### ★産業技術総合研究所北海道センター★

じゃがいもの水耕栽培技術の開発や世界初の植物工場システムの開拓など、世界に通用する最先端技術が結集している事に感銘した。こういう所で地道に研究開発が行われ、私たちの生活の質の向上が図られていると実感できた。北海道の石炭から化学燃料へ、そして新エネルギーの開発研究へと進み、今また新たな、メタンハイドレート資源の研究で天然ガスが生み出されようとしているのだ。実際、かなり古ぼけた建物の中で、最先端のメタンハイドレートの燃える様子の実験を見た。大型の実験装置も巨額の投資が必要で、研究者は研究費が足りないとのことだ。世界に名だたる日本の力を発揮するには、何とか研究費の増額が出来ないものかと感じた。これから期待できるメタンハイドレート。駿河湾にも眠っている様子。深海探査船の“ちきゅう”が清水港を母校としてしていることなどから、研究所誘致や大学との研究提携等静岡市の積極的関わりを期待するところです。

#### ★北海道水資源の保全に関する条例について★

さすが北海道なので、土地の大規模な取引が行われている。その際、水源周辺の適正な土地利用がされていないことを危惧し、水資源の確保のために条例制定がなされたのだが、80%の森林を抱える静岡市に於いても同様のことが考えられる。水源涵養林の確保充実や安心安全の水資源の確保のため、官民の協力体制作りが必要だ。静岡市の清流条例は河川に特化した条例だが市民の意識醸成、安心安全の水資源の確保は共通のことだ。今後、水資源保全の条例の制定も考えてみてはどうか。林業の不振などもあり、土地の売買につながっていると見える。林業家の保護策や土地を守る法整備が急がれる。国への積極的な働きかけが必要だと考えます。

視察を終えて委員全員で お疲れ様でした

